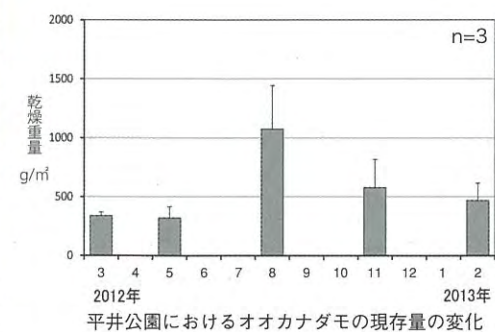


駆除活動

2010年秋以降、NPO法人矢作川森林塾が中心となり矢作川漁業協同組合、アユ釣り師、学生ボランティア、河川管理者、矢作川研究所が協働し、本格的なオオカナダモ駆除活動をおこなっています。

駆除は、根から丁寧に引き抜いたオオカナダモを釣り船に乗せて岸まで運び、陸で日干し乾燥という手順でおこなっています。2012年度からパイプの先端から圧縮空気を吹き出させる新兵器『藻っと、取れーる』の活用によって根の洗い出しが楽にできるようになりました。オオカナダモは繁殖力が強く切れ藻からも増殖するため、作業の下流側にネットを設置し、切れ藻が流れないように配慮をしています。



調査・研究

矢作川研究所では、矢作川に繁茂したオオカナダモの生態特性を把握するため、オオカナダモの生育に関係する環境要因のデータ収集、オオカナダモの分布変化や繁茂量の変化などを調べています。

矢作川 異常繁茂する生き物 - オオカナダモ -

編集・発行：豊田市矢作川研究所、NPO法人矢作川森林塾、矢作川漁業協同組合、国土交通省豊橋河川事務所 平成25年9月発行

※このパンフレットはNPO法人矢作川森林塾と国土交通省豊橋河川事務所との間で締結されたアダプト制度により印刷しました。

矢作川

異常繁茂する生き物

オオカナダモ



オオカナダモとは？

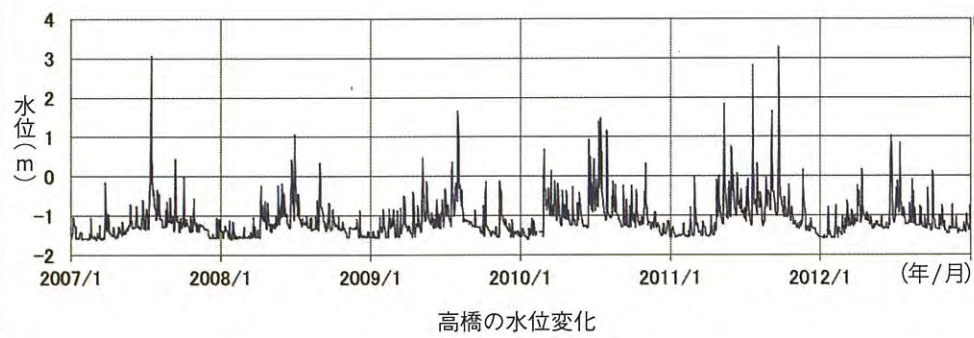
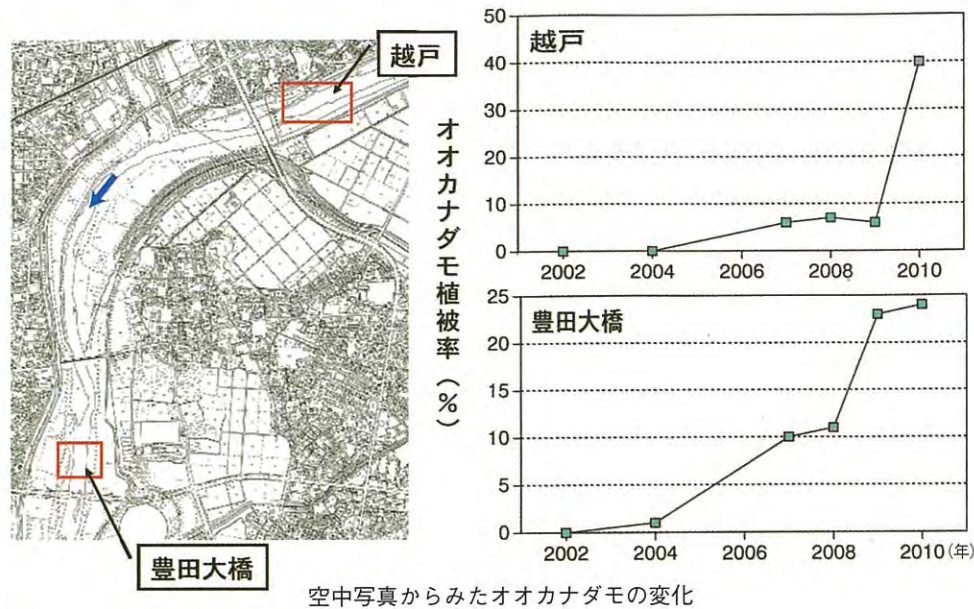
カナダという名が入っていますが、南米原産の外来水草です。日本では1940年代に野生化が確認され、1970年代に琵琶湖で大繁茂しました。

矢作川では、平戸橋下流で1990年代に繁茂し注目されました。その後、2008年頃から著しく繁茂し、平戸橋から久澄橋までの区間に広がりました。アユが餌をはむ瀬まで覆い尽くし、友釣りの障害になっています。形の似た種に、外来のコカナダモと日本在来クロモがあります。

オオカナダモの分布の変化

オオカナダモの植被率の変化を空中写真で確認しました。越戸では2004年以降にやや増加し、2010年に激増しました。豊田大橋では2007年と2009-2010年に段階的に増加したことがわかりました。

2009年以降、オオカナダモの分布を関係する機関で調査しています。2011年-2012年のオオカナダモの分布変化(右ページ)を見ると、2011年晩秋・2012年冬に分布域が縮小しています。2011年春から秋にかけて数度の大きな出水があり(高橋の日最高水位の変化を参照)、それがオオカナダモの繁茂に影響したと推察されます。駆除した区域では、駆除後の繁茂が抑制される傾向がみられました。



オオカナダモによる影響

矢作川では、オオカナダモの大繁茂によって、川の底質、水中の光環境や流速など様々な環境が変化し、水生生物の生息に大きな影響を与えています。オオカナダモが繁茂することでアユの生息場が無くなるだけでなく、川底では石に届く太陽光が遮られ、アユなどの餌となる付着藻類の成長も阻害されます。オオカナダモ群生地と生えていない場所でトビケラ類やカゲロウ類など水生昆虫の量と種類を比較したところ、群生

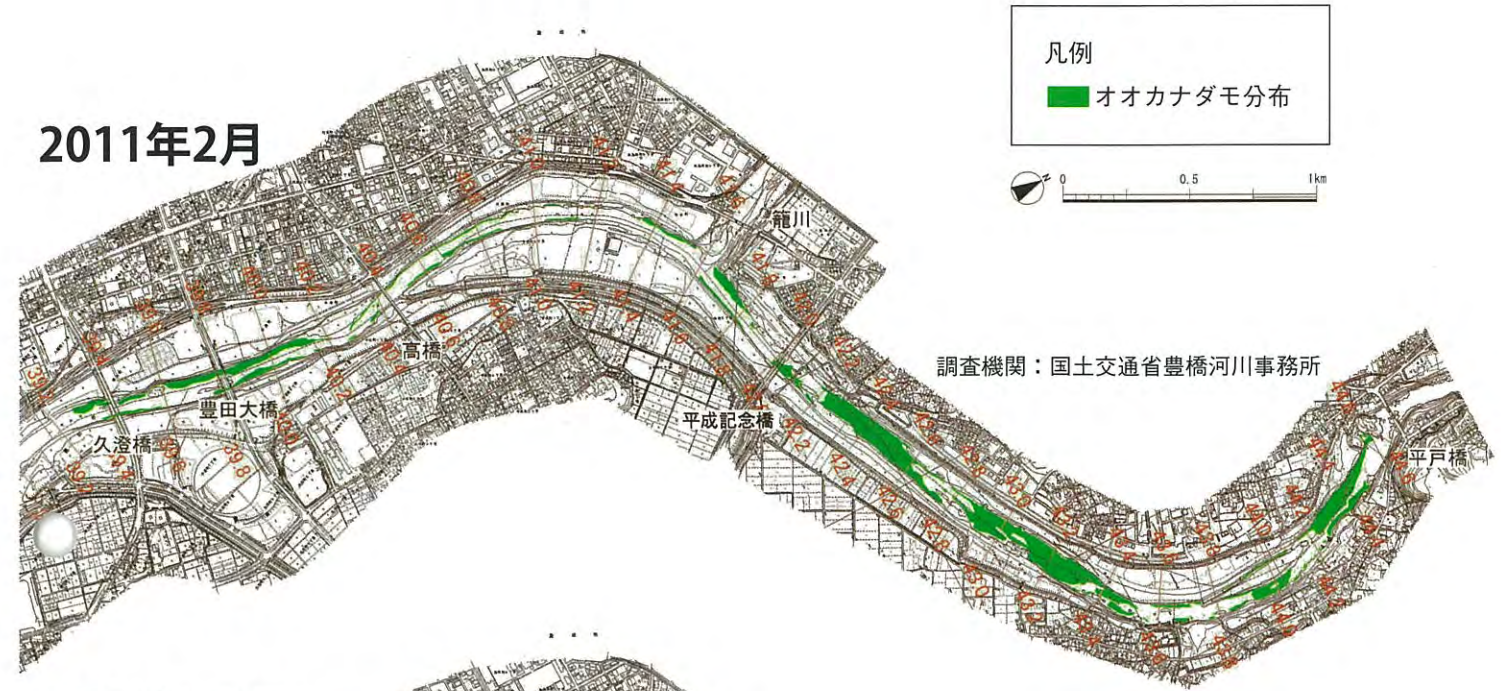
地ではそれらの量は小さく、種類も少ないことがわかりました。

オオカナダモの大繁茂は、川の景観を悪くするだけでなく、矢作川の生態系を変化させ、水生生物の多様性も低下させることがわかってきました。矢作川のシンボルであるアユの健全な生育や在来の水生生物の保全を目指すため、基礎的な調査・研究と地道な駆除活動に取り組んでいます。

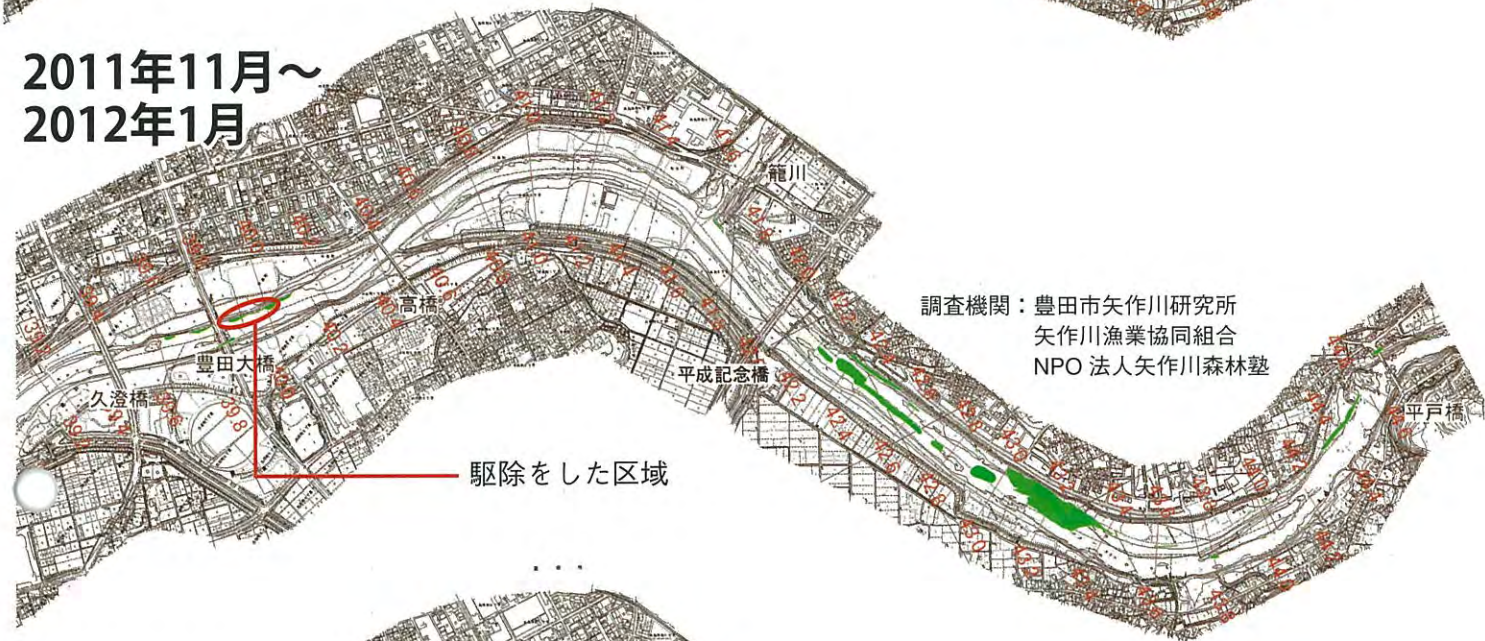


オオカナダモの分布 平戸橋～久澄橋

2011年2月



2011年11月～
2012年1月



2012年11月

